

# 職務研究

2023.9 第353号

特集/職場コミュニケーション推進施策

## NECネットエスアイ

人材組織開発部 グループマネージャー 中條 貴美  
人材組織開発部 課長 小西 元紀  
人事部 課長 小尾 正和  
コーポレートカルチャーデザイン室 主任 北川 龍樹

## NTTデータ先端技術

人事総務部ウェルビーイング経営推進担当 本間 菜摘  
人事総務部ウェルビーイング経営推進担当 担当部長 鳥山 美佐

## 千代田化工建設

バリューイノベーション推進部 第1期 (DIG-1) Project Manager 兼 企画起案 安部 裕一  
第3期 (DIG-3) Project Manager、PlantStream出向 松下 哲夫

## 東芝テック

総務部人事企画室 人材開発担当グループ長 渡辺 千沙

## 野村不動産ホールディングス

グループ人材開発部 ウェルネス・D&I推進室 田口 太哲

## 武蔵野

代表取締役 小山 昇

経団連事業サービス 人事賃金センター

# 職務研究

2023.9 第353号

## 目次

## CONTENTS

### 特集／職場コミュニケーション推進施策

---

<b>NEC ネットズエスアイ</b>	1
人材組織開発部 グループマネージャー	中條 貴美
人材組織開発部 課長	小西 元紀
人事部 課長	小尾 正和
コーポレートカルチャーデザイン室 主任	北川 龍樹
<b>NTT データ先端技術</b>	10
人事総務部 ウェルビーイング経営推進担当	本間 菜摘
人事総務部 ウェルビーイング経営推進担当 担当部長	鳥山 美佐
<b>千代田化工建設</b>	16
バリューイノベーション推進部第1期 (DIG-1) Project Manager 兼 企画起案	安部 裕一
第3期 (DIG-3) Project Manager、PlantStream 出向	松下 哲夫
<b>東芝テック</b>	33
総務部人事企画室 人材開発担当グループ長	渡辺 千沙
<b>野村不動産ホールディングス</b>	43
グループ人材開発部 ウェルネス・D&I推進室	田口 太哲
<b>武蔵野</b>	52
代表取締役	小山 昇

# NTTデータ先端技術

人事総務部  
ウェルビーイング経営推進担当

本間 菜摘



人事総務部  
ウェルビーイング経営推進担当  
担当部長

鳥山 美佐



## 会社概要

設立：1999年8月3日  
資本金：1億円（株NTTデータグループ 100% 出資）  
売上高：609億円（2023年3月期）  
事業内容：情報・通信システムおよび関連ソフトウェア並びにハードウェアの設計、開発、開発管理、設置、販売、保守、運用、賃貸借ならびに輸出入ほか  
所在地：東京都中央区月島1-15-7  
従業員数：1,042名（単体）、1,568名（グループ全体）

（2023年4月1日現在）

## 1. はじめに

当社はNTTデータグループの一員として1999年に設立されたシステムインテグレーター、ITコンサルティング企業である。

クラウド・データベース等の基盤環境を提供するプラットフォーム、ビッグデータ・AI・ブロックチェーン等を活用したアプリケーション開発を提供するソフトウェア、サイバー攻撃に対するソリューションを提供するセキュリティの大きく3つの事業領域を中心に、金融系や公共系におけるミッションクリティカルなシステムをはじめ、幅広い企業のシステム構築、運用およびDX（デジタルトランスフォーメーション）導入を支援している。

## 2. 働き方改革

以前より勤務形態はフレックス制度を導入し、介護・育児等と仕事の両立が必要な社員を対象に在宅勤務が可能な環境ではあったものの、新型コロナウイルス

蔓延を機に在宅勤務用PC・スマートフォンを配布し、誰もが在宅勤務を可能とした。

在宅勤務をした際は手当を支給する制度や社員一人ひとりが自宅で働きやすい環境を得るために机や椅子といった什器やPC周辺機器等必要な商品を選んでレンタルできる仕組みを導入した。

また、サテライトオフィスの開設や民間シェアオフィスの利用を開始することでより柔軟な働き方を可能とした。

オフィスは固定席を廃止し社内フリーアドレス化を導入、スペースを空け新たにコラボレーションスペースを新設した。

### 3. コミュニケーションにかかる当社の課題

在宅勤務をはじめとした柔軟な働き方を積極的に促進してきた半面、オンライン中心の業務により雑談等仕事以外の話をする機会がない、経営層と会話する機会がない、他部署が何をしているか知る機会がない、などコミュニケーションの場が減少したことが露呈。

それにより経営方針への理解や帰属意識の低下、さらには在宅勤務の孤立感からくるメンタル不調に陥ってしまう可能性があることが喫緊の課題となった。

そこで、参加するだけで終わりではなく“つながり”を意識したコミュニケーション施策を多岐にわたり取り組んできた。

### 4. コミュニケーション施策の紹介

#### (1) オフィスにコラボレーションスペースの新設

200人をキャパシティーとしたコラボレーションスペースをオフィスに新設(図表1)。

当社は隅田川沿いにあり、窓から春は満開の桜が望めるロケーションの中、木を基調としグリーンを多彩に取り入れた社員がホっとできる空間づくりに力を入れた。

スペースの使い方は自由自在でランチを楽しむグループがいれば、打ち合わせや一人で集中して仕事をする人、果てはマッサージチェアでくつろぐ人もいて、

過ごし方は人それぞれ。机や椅子はキャンプギアになっていて、イベントスペースにも早変わりできる。

社員が気軽に立ち寄る工夫としてコーヒーの無料提供等を行っており、社内コミュニケーションの活性化を図っている。

図表1 コラボレーションスペース



## (2) ツキイチlink（全社員交流会）

上記のコラボレーションスペースにて全社員を対象とした交流会、通称「ツキイチlink」を開催している。

当社の英名「INTELLILINK」は造語で「Intelligence（知性）をlink（つなぐ）」という意味が込められており、「つなぐ（つながる）=link」と「月一で開催する=ツキイチ」が由来となり、「ツキイチlink」と名付けた。経営層が積極的に参加し、新入社員の歓迎をはじめ、社員同士が飲食を交えながらフラットにコミュニケーションがとれることで、縦にも横にもつながりの輪が大きくなることを目的としている。

図表2 ツキイチlink



### (3) 経験者採用者および経営層交流会（同期会）

当社は積極的に経験者採用を行っており毎月入社者がいるが、新卒入社に比べて横のつながりが薄くなりがちであった。そこで、入社2年目の経験者採用者を対象に、経営層も交えたコミュニケーションの場として交流会を開催している。

同時期に入社した社員を集めることで同期意識を向上させ孤立感を解消し、同期同士での連携を深めるとともに、接する機会が少ない経営層と直接対話できる場を設けることで、経営方針への理解や組織内の信頼感の強化、帰属意識の向上を目的としている。

### (4) 技術者交流会

技術者・営業・スタッフなど様々な職種がある中、各々専門分野で専門家委員会を立ち上げ。知見をもった社員が登壇し、技術的なトピックや知識を共有しあう勉強会を開催している。

他の技術者の成功事例やベストプラクティスを共有することで問題解決やプロジェクトの改善を促進、最新トレンドのキャッチアップや技術スキルの向上、さらに自らアウトプットをまとめ発表する経験の積み重ねを目的とし、ともに成長し協力しあう文化の醸成につなげている。

### (5) 社内サークル

組織の垣根を越えて共通の趣味を持った社員が交流できる、サークル活動を推進している。

現在、野球サークル・ゴルフサークル・フットサルサークル・ダーツサークル・旅行サークル・ゲームサークルが活動しており、社員同士の関係性を深めることでエンゲージメント向上を図っている（図表3）。

図表3 社内サークル

野球サークル



ゴルフサークル



フットサルサークル



ダーツサークル



旅行サークル



ゲームサークル



5. “社員一人ひとりが心身ともに健康でやりがいをもっていきいきと働き続ける”会社、「ウェルビーイング」をめざして

「やりがいをもっていきいきと働き続ける会社とは何か？」

その土台となるのが「心身ともに健康である」健康経営を推進していくことだった。

前述のコミュニケーション施策に加え、コラボレーションスペースでは管理栄養士が選んだ栄養バランスに配慮したお弁当等の販売や、健康月間には野菜ジュースや野菜スープの無料提供、健康器具を設置している。

さらにスマートウォッチを全社員に貸与し歩数をアプリ連動させ、全社ウォーキング大会を開催するなど、社員の日々の健康保持・増進に注力している。

その上で、「やりがいをもっていきいきと働く」施策として、マネジメント力の発揮（マネジメント軸）だけでない技術力・専門性の発揮（専門性軸）の2次元（2軸）でキャリアを描ける人事制度や業務時間内を使って自らの専門性を向上させる自己研鑽の時間を設けることが可能な制度を導入している。

“社員一人ひとりが心身ともに健康でやりがいをもっていきいきと働き続ける”ことを当社では「ウェルビーイング」と名付けて推進している。

仕事を通じて技術を磨き自ら成長を実感できる、ワークライフバランスを大切にできる、など「幸せ」という気持ちを持ちながら働き続けられる、そんな会社を目指し新たなチャレンジに取り組んでいきたい。